

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	10月	27日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	井本	大谷	小倉	島田
	西田	本井			
取材対象先	山添村：薬音寺の木造仏像群				

所在地	山添村室津(むろづ)				
所有者(取材 対応者)名	薬音寺		連絡先 ***様		
	取材対応は***様(個人情報守 秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：***様				
市町村 指定文化財	彫刻	20軀	薬音寺木造仏像群 1990(平成2)年6月29日指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	本尊の十一面観音菩薩立像を含めて20体の仏像を有し、うち18体は平安時代の作。これだけ多くの平安仏が一堂にまつられるのは県内でも例がなく、仏像群としての価値が非常に高い。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消防署は役場の近くのためやや距離があるが、薬音寺のある地域には消防団がある。	地域の方が通る道路沿いがあり、お堂もよく見える。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	後ろが山なので、イタチ、アライグマ、イノシシなどが来る。天井裏に何か来ていたようである。	仏像に直接の被害はなさそうだ。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	現在約20軒の檀家があり、毎月17日の観音講には般若心経を唱えている。その後、隣の公民館でのおしゃべりを楽しみにしている。20年に一度修理を行うため積み立てをしている。薬音寺の大切なことは総代が集まって話し合っ て決める。防犯カメラを設置して360度監視している。20体の仏像は鉄柵を 施した壇の中に納め、厳重に管理している。今後を引き継ぐ若い方が少ない のが心配である。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

平安時代の仏像が所狭しと並ぶ様子には圧倒されるものがある。千年もの長い間、よくぞ守ってこられたものだと思う。一つの集落である室津になぜ三つもの寺(裏面右下参照)が存在したのかについて、木がよく育つこと、水がきれいでおいしい米がとれること、茶の栽培の三点によっていい所であったからだと言われた。昔はこの境内で子どもが集まってお菓子を食べていたこともあったとも話してくれた。この寺に愛着をもって大きくなった地域の方々が、長年にわたって関わり続け守られてきたと感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	10月	27日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	井本	大谷	小倉	島田
	西田	本井			
取材対象先	山添村：薬音寺の木造仏像群				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 薬音寺木造仏像群

木造仏像群(上段向かって右端が本尊十一面観音)

内陣(向かって右)→

内陣(向かって左)↓



文化財 (安置状態の全体写真)

薬音寺



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域(廃寺)の歴史や特徴を記入

本尊十一面観音立像は像高101cm、桜とみられる広葉樹の一木彫。「長谷の観音に参れない人は室津の観音に参れ」といわれ信仰を集めた。幕末には早魃の雨乞の時、またコレラ病流行の時、観音を開帳して祈願した。弘法大師坐像はもと常住院本尊と伝わり江戸時代の作。阿弥陀如来坐像はもと阿弥陀寺本尊と伝わり当初の蓮華八重座に座し鎌倉時代の作。平安時代の仏像の中には、異なる作風であっても一具の可能性をもつ群が複数存在する。薬師如来坐像は10世紀の作と思われる。(『東山村史』・2014(平成26)年の奈良県調査の所見・説明板参照)

室津には薬音寺、常住院、阿弥陀寺の三寺が存在した。薬音寺は室津の氏神九頭神社(くずじんじゃ)(現在は戸隠神社と表記)の神宮寺である。19体の安置仏を列記した1712(正徳2)年の年紀を有す額が本堂に掲げられていたと伝え、これに基づけば現在の安置状況は江戸中期にまで遡ることになる(現在は20体)。観音菩薩像や地藏菩薩像が複数伝わることから、廃寺となった寺の仏像が集められたと推定される。1906(明治39)年、久保田鼎奈良博物館長が調査して適当な保存方法をとるよう勧告されたので、現在のように鉄柵を施した仏壇に改造された。(『東山村史』・2014(平成26)年の奈良県調査の所見参照)